



榛東村 **初** の女性村長！



群馬県のほぼ中央、榛名山の東麓にある榛東村は、自然豊かで伊香保温泉も近いが、前橋市・高崎市にも隣接しており、アクセスも良好だ。都心も自然も満喫できる、人にも優しい村。そんな榛東村で、初めての女性村長が誕生した。南村長の村議、議長時代から村長になるまでどのようなストーリーがあったのか。南村長に直接インタビューさせていただいた。

き

きっかけは「ボランティア活動の仲間に推されて」

Q:村議に立候補されたきっかけを教えてください。

初当選は 26 歳でした。村長選挙と同時に村議会議員の補欠選挙が行われるというタイミングでした。当時活動していたボランティアの仲間から推されて、断れない状況に周りを固められ、私自身とても驚いたのですが、立候補の届出をしました。立候補のお話をいただいたのは告示日当日でしたので、両親には無投票で当選が確定した後報告しました。

「議員としての日頃の活動が大事」

Q:選挙に初めて臨まれたのは、3 期目の選挙からですね？

2 期目は選挙があると思って準備していましたが、定数ぴったりだったので無投票での再選となりました。投票していただく選挙は 3 期目からでした。選挙は、お金がかかるというイメージがありましたが、お金はないので、お金がなくてもできる選挙をしなければいけないと思いました。そもそも選挙について右も左も分からない状況でしたので、国政を含め他の方の選挙を手伝ったりして、勉強させていただきました。実際の選挙は、大変でした。少ない人数で、ボランティアの皆さんや家族に協力いただくなどして乗り越えました。ただ、選挙活動そのものが重要というよりも、村民の皆

南千晴 村長 Profile

1980 年 榛東村生まれ・榛東村育ち
 2003 年 高崎経済大学地域政策学部卒業
 2007 年 榛東村議会議員選挙当選以降、5 期連続当選
 2016 年 高崎経済大学大学院博士前期課程修了
 2017 年 榛東村議会議長就任
 2019 年 群馬県町村議会議長会副会長就任
 2023 年 5 月～ 榛東村村長就任

さんはやはり日頃の議員の活動を見てくださっているとと思っているので、その日頃の活動を大事にしていくことが、選挙結果につながるのではないかなと思っています。

「先輩議員の働きかけ」「応援の野次」

Q:村議時代に工夫されたこと、苦勞されたことを教えてください。

最初は緊張し、なじめるか不安でしたが、本会議や委員会の中で、若い女性議員だからということで、特別なことですか、嫌な思いをしたことはほとんどありませんでした。任意の懇親会も含めてお声掛けいただき、分からないことがあれば、議長や先輩議員に相談をしました。コミュニケーションを取ることが大事だと思っていたので、同期当選の議員にも機会を見つけていろいろとお話をするように心掛けていました。ただ、当時、委員会室はテーブルの真ん中に大きな灰皿が何個

も置いてあり、会議中ずっと白い煙が充満していたので、そこだけは気になっていました。ある日、女性の先輩議員が、若い女性の議員が議会に入ってきたのだから委員会室では禁煙にしてはどうかと要望を上げてくださったのです。すごく有り難かったですね。また、議員として初めて一般質問をしたとき、緊張しながらも必死で質問していたのですが、先輩議員から「もっと突っ込め、もう1回質問しろ～」という野次が飛んできました。その応援の野次のお陰で、更に迫及する質問をできたということがあり、非常に励まされました。住民の代表として様々な質問ができるように、議会ルールや政策について、たくさん勉強しましたね。

Q:議長を務められることとなったきっかけを教えてください。

4期目の選挙の時に、村民の方から、「次は議長をやってね」という声を数多くいただきました。これまで自分では意識していませんでしたが、仲間の議員からも、「やるべきだ、支えるよ」というような声もいただきまして、議長選の結果、議長に当選しました。議長は議会の代表ですので、全体を見て議会運営を考えなければいけません。責任の重さを受け止めながら、務めさせていただきました。

仲

間の議員の支えで乗り越えた妊娠・出産

妊娠が分かったときは、どのタイミングで報告したら良いのか悩みました。議長でありながら自分の事情をお話することにためらいもありました。ただ、つわりがひどかったこともあり、安定期に入る少し前に正直にお話をすることにしました。すると、仲間の議員の皆さんが、「きちんと出産できる環境を整えることが必要じゃないか」と前向きに受け止めてくださったのです。その後、労働基準

法に準じて産前6週、産後8週の欠席ができるよう、会議規則を改正してくださいました。出産・育児だけではなく介護や傷病なども含めて、多様な人が議会に参画できるよう議員の皆さんの理解があって、環境整備が進みました。当事者として、環境を整えていただけたことはとても有り難かったですし、エポックメイキングとなりました。

産後約2か月で復帰したのですが、復帰後の育児の中で授乳が一番大変でした。こどもが生後3か月の時に哺乳瓶を嫌がり始め、混合授乳がうまくいかなくなってしまいました。直接授乳することではかこどもが栄養を摂れない状況になったのですが、今度は議会活動と授乳のタイミングが合わない。お昼休みに自宅に帰らせていただいたりしてなんとか対応していたのですが、私自身が度々乳腺炎になってしまい、乳児の世話と授乳ケア、病院通いも重なって非常に大変でした。議長職と育児の両立に悩みながらも、家族とも協力しながら、なんとか乗り越えました。2人目の妊娠中に改選があり、改選後は新しく当選された女性議員でもう1人妊娠中の方がいらっやって、同じ時期に出産を迎える議員が2人となりました。当時私は、議会運営委員会の委員長を務めていたこともあり、議会運営委員会の皆さんに、議会と育児の両立や1人目のときに授乳に苦労したことなどについてお話をしました。「選挙で選ばれた議員がその職責を果たすためには、議員活動と子育ての両立が必要です。授乳問題がクリアになれば、本会議や委員会にも安心して専念することができ、職責を全うすることができます」そこから、いろいろな調査や議論を重ねて、1歳未満の乳児を育児中の議員については、授乳等の育児時間を会議中に2回、それぞれ少なくとも30分請求できるように会議規則の改正案を提出し、全会一致で可決されました。当時、男性の議員から

「子育て真っ最中の議員のために環境を整えることはとても大事なことからしっかり進めてね、って妻にも言われたよ」とのお話を伺い、議員の御家族からも支援していただいて有り難いと感じました。授乳時間の議論が始まった当初は、各委員長や議長への報告と了承で運用することを考えていましたが、私たちの後に続く議員のことを考え、会議規則を改正することにしました。議員の皆さんの理解と支援には本当に感謝しています。

大 事なことはちょっとした会話から気付かされる… 待機児童がゼロではない！生の声からの気付き

Q:村議時代に印象に残っている出来事について教えてください。

議員時代に、村民から、いつ誰に話したらいいか分からなかった、女性同士じゃないと話づらいという御意見はよく聞きました。当事者であれば、同じ立場の人たちの声も細部にわたって理解することが可能です。例えば、女性のがん検診の充実や乳がん術後の補正下着、治療時のウィッグ補助などは、私が女性議員だから相談しやすかったことかもしれません。女性の不妊治療や不育症治療費の助成に関しても、積極的に働きかけましたね。また特に印象的だったのは、待機児童問題です。榛東村は待機児童ゼロと言われていたのですが、あるときふとした村民との会話で、「榛東村は待機ゼロじゃないですよ」と言われて目を丸くしました。すぐさま行政に確認したのですが、「待機児童はゼロです」との回答でした。これはおかしいと思い調べてみると、申請窓口に来たときに「もういっぱい入れません」と聞いた村民は、申請書を書かない、提出すらしないのでカウントされていないということが分かりました。

私は、「それってゼロじゃないですよ」と確認しました。以後は申請書を提出する手続きにして、正確な数字を把握できる仕組みに変更されました。私は、村民からいつ誰に話して良いか分からないと言われれば、時間が許す限り、じゃあ今話してくださいって良いですよと言っています。大事なことはちょっとした会話から気付かされるものだと感じています。村民の生の声を聞くためには、気軽に話せるところに男女や世代を問わず議員が存在していることが大切だと思っています。

Q:村長を務めるきっかけ・マインドの変化についてお伺いさせてください。

議長を経験してから、村長選に出てほしいという意見を度々いただいていたのですが、選挙の日が近づくにつれ、その声が大きくなっていきました。こどもが小さいですし、更に重責でしたので、決断しきれずに毎日葛藤していました。ただ、これまで議員としてお世話になったことに対して、榛東村へ恩返しをしたいと思っていたので、思い切って家族に相談しました。そうしたら、「後悔しないように挑戦すれば良い」と後押ししてくれて、村長選への出馬を決断しました。村長になっての気持ちの変化という点ですが、村長は予算の編成権と執行権があります。住民の方々が求める行政サービスの在り方について、職員と検討しながら、村の方向性を決めていくなど、議員とは立場が全く違います。議員もやりがいがありましたが、村長はもっとやりがいのある仕事だということを改めて感じているところです。

南村長が議長を務められている間には、育児に関する会議規則の改正も行われました。
2018年 育児事由による議会欠席について
会議規則改正
2021年 育児時間について会議規則改正

榛東村マスコットキャラクター
しんとうちゃん(ぶどうの精)



家

族の協力、周囲の理解

Q:女性が議員へ立候補しやすくなるためには、また、議員活動を続けていくためには、何が必要だと思いますか？

妊娠中の女性議員から当時聞いたのですが、村議に立候補するかどうかで悩んでいたときに、村民から「南さんも子育てしながらやっているんだからあなたにもできるわよって言われた」と伺いました。榛東村は、女性議員に対する理解が当たり前の風潮、雰囲気にもしかたらなっているかもしれません。村民の皆さんが、温かく受け入れてくださっている、理解してくださっているなと感じています。もちろん、自分自身の努力に加えて、家族の理解や協力、議員皆さんの理解も必要です。ただ、日本の人口の約半分は女性ですから、政治にも女性が参画しているのは当たり前じゃない？という感覚はあります。私自身、女性だから議員になった村長になったという意識はなく、たまたま女性という性別だっただけのこと。議会は住民の代表ですから、男女両方いて当たり前、多様な人が議員になることで、より多様な意見を反映することができる議会になると思っています。

日本はまだまだ、男性は育児を手伝うもの、主が女性で男性はサポートのようなニュアンスの話が出てきます。育児や介護など、家庭のことの主体を女性が背負うという認識が根強く残っていますので、女性活躍と言われても、多くの場合まだまだ女性に負担がかかっているのではないのでしょうか。ですが、それだともう成り立たない時代になっています。我が家では、どちらが主体ではなく、やれるほうがやる、こども園の迎えは、行けるほうが行く。手伝ってもらっている意識ではなく、分担で子育てをしています。

「悩むなら挑戦を！」

Q:女性議員を目指す方、女性リーダーに向けて、一言お願いします。

議員やリーダーに男性も女性もいて当たり前の社会です。これまで道を切り拓いてきた女性の先輩方も、悩みながらも乗り越えてこられた方がたくさんいらっしゃいます。悩んでいるのであれば挑戦してもらいたいと思います。どんな人も生きていけば、楽しいこと、苦しいこと、つらいことなど、いろいろなことがあると思います。勇気を出して一歩踏み込んでもらいたいです。共に頑張りましょう。

《榛東村基本情報》

総人口：14,556人（2024年3月31日）

男性：7,440人

女性：7,116人

世帯数：6,186世帯

地勢：総面積約27.92km²、群馬県のほぼ中央に位置し、隣接する中核市、前橋市や高崎市のベッドタウン。

出所：榛東村ウェブサイト

